### **REVOCAP\_PrePost TIPS (1/3)**

# (1)メッシュファイル foo.msh を読み込む際の注意

- ▶ 拡張子 .msh のファイルには、次の2種類のデータ形式がある
  - ◎ HECMW形式 ···· FrontISTRで用いているメッシュ
  - ADVENTURE\_TetMesh形式 … ADVENTUREで用いているメッシュ
- foo.msh を読み込む際、そのデータ形式を正しく指定しないとメッシュ読込 に失敗する

# (2)移動してしまった面を元の表示に戻す

\[
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]
 \[
 \[
 \]

# (3)材料物性値の指定

▶ 「計算格子」で領域を選択し、「材料の選択」メニューで指定



2014年9月8日(月) 第13回FrontISTR研究会

## REVOCAP\_PrePost TIPS (2/3)

# (4)モデル名の設定

- ▶ デフォルト(FistrModel)以外のモデル名 「ソルバー」を選択
- 保存ディレクトリの path に日本語を含んではいけない
   推奨例) C: ¥work や C:¥Users¥Guest¥Desktop¥workなど
- (5)ポスト処理時 "Rendering"のon/off▶ 物体表面のcontour表示の色合いに影響するので注意
- (6)FEM解析実行の前にデータファイルを再度確認 ▶ 必要に応じて foo.cnt 等をエディタで編集する

(7) REVOCAP\_PrePostの外でFrontISTRを実行する
 入力データのあるディレクトリで fstr1.exe を直接実行する

2014年9月8日(月) 第13回FrontISTR研究会

#### REVOCAP\_PrePost TIPS (3/3)

#### (8)熱伝導解析→熱応力解析における注意

- 熱伝導解析用のメッシュファイルと熱応力解析用のメッシュファイルは同じ
- ▶ 熱伝導解析用のディレクトリと熱応力解析用のディレクトリを用意する。
  - 例)ディレクトリ「gear\_T」とディレクトリ「gear\_S」を作る
     ディレクトリ「gear\_T」には、メッシュファイル「gear.msh」、
     熱伝導解析用の解析制御ファイル「gear\_T.cnt」を入れる
     ディレクトリ「gear\_S」には、熱応力解析用の解析制御ファイル
     「gear\_S.cnt」を入れる
- ▶ 熱伝導解析の結果ファイルを読み込むとき、TreeViewの「ソルバー」→ 「解析設定」の「熱応力解析」のパラメータを入力する
  - 例) 定常熱伝導解析の結果を読み込む場合、「熱伝導解析の結果ステップ 数」を1、「最初のステップ番号」を1、「熱伝導解析の結果ファイル名」を ../gear\_T/FistrModelと設定する
- ▶「モデル保存」で生成された解析制御ファイルには、線膨張係数の値が抜けているので注意する 解析制御ファイルに手動で線膨張係数の値を書いた後、TreeViewの「ソルバー」→「実行」の「FrontISTR実行」を押す

2014年9月8日(月) 第13回FrontISTR研究会